

(様式1)

新宿区立落合第三小学校

学力向上のための重点プラン【小学校】

■ 学校の共通目標

授業づくり	重点	・自分の思いや考えをもち、人とかかわりの中で、広げ深めることができる授業を目指す。	中間評価		最終評価	
環境づくり		・各教室の板書掲示や声の物差しの掲示などを統一し、「めあて」や「ふりかえり」などの学習の流れを定着させる。 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、どの児童にもわかりやすく、集中できるような環境づくりを行う。				

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組み（10月）	最終評価（2月）	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組み（4月）	中間評価・追加する取組み（10月）	最終評価（2月）
2	国語	学「話すこと・聞くこと」について、話し方・聞き方の基本的なルールを確認し、身に付いているといえる。 学平仮名及び片仮名の読み書きについては、ほとんど児童が習得しているが、仮名遣いや片仮名についての理解が十分ではなく、文や文章の中で適切に使えていない様子が見られる。また、習った漢字を使って文章を書く習慣が身に付いていない。	・大事なことを落とさず、最後まで話を聞くことに課題がある。 ・語と語や文と文との続き方に注意をしてつながりのある文章を書く経験が少なく、文章を読み返す習慣が十分に身に付いていない。また、語彙力に課題がある。	・「話すこと・聞くこと」についての基本的なルールを継続して指導する。また、自ら確認できるように掲示物を効果的に活用し、視覚化を図る。児童自身が振り返る機会を定期的に設け、改善していく。 ・「書くこと」の単元の学習の中で、つながりのある文や文章の書き方を指導する。 ・児童との日常的なやりとりの中での「言葉」を大切にし、正しい言葉使いを身に付けさせると同時に語彙を広げられるようにする。また仮名遣いや片仮名、既習漢字の復習を定期的に実施する。		
	算数	学10以内の加法・減法については、全ての児童が理解できている。 学問題を把握する力が不十分で、立式をすることが困難な児童が見られる。	・繰り上がり・繰り下がりのある加法・減法の計算の仕方についての理解が十分ではない。 ・文章問題を読んで理解し、立式することに課題がある。	・基本的な計算練習を繰り返し行い、計算力を高める。 ・文章問題において、「分かっていること」と「求めていること」を確実におさえ、何を問われているのかを理解できるよう支援する。		
3	国語	調学力定着度調査の結果を観点別にみると、すべての観点の正答率が全国を上回っている。特に「書く能力」と「読む能力」「知識・理解」の正答率が8割を越える結果となった。 調観点別、領域別に見ても「話す・聞く能力」は正答率が全国平均は上回っているが、8割を切っている。 学学習に意欲的に取り組む姿が見られるが、学力定着度調査の「関心・意欲・態度」が8割を切っている。	・正答率の分布状況を見ると、全ての児童の正答率は60％を越えている。些細な間違いを防ぐことだけでなく学習したことの確実な定着を図るために指導の工夫が必要である。また、合わせて自主的に学習する姿勢を育てていく必要がある。	・「言語事項」の習得に関しては、引き続き漢字を使うことに興味をもたせるため、身近な言葉を感じて表したり、丁寧に書くことを意識させたりして「とめ、はね、はらい」などの習得を徹底していく。 ・「話す・聞く能力」は、教科書の学習だけでなく、日常生活の中での出来事を単元に取り入れたり、毎週の朝会時の話について聞き取りメモを書かせたりして力を付けていく。 ・「関心・意欲・態度」に関しては、教師が提示したものを学ぶだけでなく、自分が何を学ぶか、友達から何を学んだかを実感できるよう指導を工夫していく。		
	算数	調平均正答率を見ると、「考え方・技能・知識理解」の3観点の正答率は、全国平均を上回っている。特に「考え方」の正答率は、全国平均を大きく上回った。「関心意欲」については、全国の平均を上回っているが、多少の課題は見られる。 調領域「数と計算」の正答率は、おおむね良好であるが、「量と測定」においては、課題がみられた。 学授業における取り組み状況を見ると、意欲的に計算問題に取り組んだり、自分の考え方をノートにまとめようとしたりする児童が多い。しかし、計算力や問題を自力解決する力においては、個人差がある。	・算数に対する「関心・意欲・態度」を高めるために、児童が意欲をもてるような教材の工夫や指導の工夫が必要である。 ・「量と測定」において、量感を育てる必要がある。 ・正答率が低い児童については前学年の内容から見直しをしていく必要がある。	・習熟度別による適正なクラス分けを行うことで、効果的な個別指導が行き届くようにし、児童の関心・意欲を高めていく。 ・板書計画を行うとともに、掲示物を効果的に活用したり、ICT機器（プロジェクターやパソコン等）を積極的に用いたりすることで視覚化を図る。 ・「量と測定」については、長さ、かさ、重さ等について実感を伴って理解できるように体験的活動を意図的に取り入れながら指導に当たる。 ・かけ算や繰り上がり・繰り下がりのある計算など、基本的な計算問題を継続して取り組ませ、基礎基本的な計算力の向上を図る。		

4	国語	【調】平均正答率を見ると「読む能力」「知識・理解・技能」の正答率は全国平均を上回っている。「関心・意欲・態度」は全国平均を上回ったものの、課題がみられた。 【調】2年から3年の経過を見ると、2年時は学習内容がおおむね定着している児童が大多数を占めていたが、3年になると多少のばらつきがみられる結果となった。 【学】授業における取組状況を見ると意欲的に取り組む児童が多い。書くことの内容や読む力については、苦手意識を持つ児童が多い。	・国語に対する「関心・意欲・態度」を高めるために、児童が意欲をもてるような教材の工夫や指導の工夫が必要である。 ・細かい部分での間違いを減らしていく必要がある。	【年間計画・単元レベル】 ・ノートの内容に対するフィードバックを通して児童の意欲を高める。・単元によっては導入やまとめの方法を工夫し、関心をもって単元を通して学習に取り組めるようにする。 【1 単位時間レベル】 ・毎時間のねらいを明確にした授業を展開する。 ・物語文に出てくる事物や児童のノートなどを、I C T機器を積極的に活用して、視覚化を図る。 【その他の日常的な取組み】 ・漢字をどの児童も無理のない範囲でテストを実施し、誰もが頑張れば1 0 0 点が取れるようにすることで意欲の向上を図る。		
	算数	【調】平均正答率を見ると全ての観点で全国平均を上回った。 【調】2年から3年の経過を見ると、正答率の最大値が右寄りから中央に移ってきており、学力の分散化傾向がみられる。 【学】授業における取組状況を見ると、意欲的に取り組む児童が多い。新しい事柄についてはグラフの書き方、分度器を使って角度を測るなどに課題が見られる児童がいる。	・算数の全観点について、基礎・基本の見直しは、必要である。領域別に見ると図形の指導の改善が必要である。 ・学習内容の確実な定着を図るためには、計算間違いや問題の読み間違いなどの不注意な間違いを減らしていく必要がある。	【年間計画・単元レベル】 ・習熟度別指導で、特に7 0 %以下の児童については、基礎的・基本的な学習内容の指導を徹底する。 【1 単位時間レベル】 ・毎時間のねらいを明確にした授業を展開する。 ・図形や表など、多くの単元でI C T機器を積極的に活用し、視覚化を図る。 ・習熟度に合わせて、教材を用意する。 【その他の日常的な取組み】 ・計算ドリルの宿題だけでなく、プリントの宿題を出すことで、児童が算数に取り組む機会を多くする。		
5	国語	【調】教科全体の正答率では、全国平均を上回っている。観点別では、全ての観点で全国平均を上回った。 【調】四分位分布の結果からみると、学習内容の定着に課題がみられる児童には習熟度に応じた指導が必要である。 【調】3年から4年の経過を見ると、観点別では、全ての観点で大きく改善している。領域別に見ても、全ての領域で改善が見られるが、「書くこと」「言語事項」の領域では区を下回っている状況である。 【学】意欲的に取り組む児童が多い。読むことや漢字の学習には特に意欲的である。一方、書くことに対しては苦手意識をもっている児童が多く見られる。	・多くの観点、領域で全国や区を上回っているが、「書くこと」「言語事項」の領域では、指導の改善や工夫が必要である。 ・授業の中で前学年の学習内容を適宜扱いながら、現学年の学習内容につなげていくなど、指導の工夫が必要である。 ・書くことに対して苦手意識をもっている児童が多く見られる。意欲的に書く活動に取り組めるような指導の工夫が必要である。	【年間計画・単元レベル】 ・課題である書くことの単元は、他の領域よりも時間を多く設定し、丁寧に指導ができるようにする。 【1 単位時間レベル】 ・毎時間のねらいを明確にした授業を展開する。 ・漢字の学習など、I C T機器を積極的に活用することで、視覚化を図る。 ・特に書く単元では、教師が師範をすることで、児童が安心して、見通しをもって取り組めるようにする。 ・書く機会を意図的に設ける。 【その他の日常的な取組み】 ・毎日、日記の宿題を出すことで、文章を書く機会を意図的に設ける。また、感情を表す言葉を使って日記を書くように指導することで表現力を養う。 ・漢字を検定制にすることで、意欲的に漢字学習に取り組めるようにする。		
	算数	【調】教科全体の正答率は、全国平均を少し下回っている。観点別では、「関心・意欲・態度」と「数学的な考え方」で大きく下回っている。 【調】正答率分布では、学力の二極化がみられる。学習内容のこれらの児童の改善を図っていく必要がある。 【調】3年から4年の経過を見ると、観点別では、「関心・意欲・態度」が下回っているが、「知識理解」は少し改善している。また、領域別に見ると、「数と計算」では、下回っているが、「量と測定」「図形」で大きな改善がみられる。 【学】授業中の学習に取り組む姿勢を見ると、意欲的に練習問題に取り組む児童が多いが、集中力や根気強さに課題があるために学習内容が定着しにくい状況にある。また、学力上位層と学力下位層の差が大きく開いている。	・全ての観点、領域で全国や区を下回っており、算数全体の底上げが必要である。特に、「関心・意欲・態度」に課題が見られるため、児童が意欲をもてるような教材の工夫や指導の工夫が必要である。 ・学力の二極化に対応するために、習熟度に応じた指導だけでなく、授業の中で前学年の学習内容の復習を適宜取り入れていく必要がある。 ・集中して根気強く取り組む姿勢に課題が見られる。集中力の持続と粘り強く最後まで丁寧に取り組む態度を養う必要がある。	【年間計画・単元レベル】 ・どの単元においても、児童の「関心・意欲・態度」を意識し、教材や導入の工夫を行う。 ・習熟度別学習集団を編成し、基礎的・基本的な学習内容の指導を徹底する。 【1 単位時間レベル】 ・毎時間のねらいを明確にした授業を展開する。 ・積極的に算数的な活動を取り入れ、児童が実感をもって理解できるようにする。 ・毎時間の始めに前時の復習問題に取り組む時間を設定する。 ・図形や表など、多くの単元でI C T機器を積極的に活用し、視覚化を図る。 【その他の日常的な取組み】 ・計算ドリルの宿題だけでなく、プリントの宿題を出すことで、児童が算数に取り組む機会を多くする。		
6	国語	【調】「書くこと」は、平成2 7年度は全国平均を大きく下回っていたが平成2 8年度は大きく向上し、全国平均と同等になった。日常生活にて「書く活動」を意図的・計画的に取り組んできた成果と見られる。 【調】「話す・聞く」の観点では、全国平均を上回っているものの、平成2 7年度と比較するとやや下回る結果となった。 【学】漢字が中心とされる家庭学習の提出率はおおむね1 0 0 %となっている。昨年度当初は7 0 %程度だったことを考えると、飛躍的に向上しているが、ワークテストの状況を見ると、十分に学習内容が定着していない状況が見られる。平成2 8年度の【調】言語事項も全国平均を2 ポイント下回っている。	・「聞くこと」に関しては、比較的定着が図られているものの、「話すこと」に、課題が見られる。二人での対話やグループでの話し合いのみならず、全体の前で自分の考えを主張したり発表したりすることができるようにしていきたい。 ・漢字の読み書きに加え、言葉の特徴やきまりについての理解に課題がある。特にC層にいる児童の底上げが急務とされている。	【年間計画・単元レベル】 ・「話すこと」に重点を置き、指導をしていく。日常的な取組みとして、月曜日の全校朝会や朝の会にて「スピーチ」を実施し、全体の前で「話す」機会を意図的に設けていく。 【1 単位時間レベル】 ・毎時間「自分の考えをもつ」→「自分の考えを伝える（グループ・全体）」という活動を取り入れ、考えを発信する経験を積んでいく。 ・教室には話し方・聞き方モデルを掲示し、視覚化する。 【その他の日常的な取組み】 ・「漢字の読み書き・言葉の特徴やきまり」について習熟を図るため、週に2回1 0 問程度の小テストを実施する。また、月ごとに学習した「漢字や言葉」については教室に掲示したり、廊下には毎月季節に応じた「詩」を掲示したりすることで視覚化する。		

	算数	【調】平成28年度は、4観点（関心・意欲・態度、数学的な考え方、技能、知識・理解）のすべての項目で全国平均を下回っている。全体的な改善が必要である。しかし、「図形」については、平成27年度と同様で、全国平均と同等のスコアを残しており、一定の効果が確認できる。 【調】最も着目すべき項目が「関心・意欲・態度」である。平成27年度の時点を下回る結果となった。 【学】授業中のプリントやワークテストの状況を見ると、計算問題には積極的に取り組んでいる。一方、自分の考え方をノートにまとめたり説明したりすることに苦手意識をもっている児童が多い。	・すべての観点において、苦手意識をもっている児童が多い。特に、関心・意欲面において顕著に現れている。 ・「数学的考え方」の項目に苦手意識をもつ児童が大変多い。一方で正しく問題をとらえ処理できる児童も多い。学力の二極化が顕著になっていることを踏まえて、授業の計画や学習集団を編成していく必要がある。	【年間計画・単元レベル】 ・年間を通じて、単元ごとの児童の実態を正確に把握するようにする。算数少人数教室の適正なクラス分けを行うことで、効果的な個別指導が行き届くようにすることで、児童の関心・意欲を高めていく。 ・論理的に問題を解く活動を繰り返していく。単に問題を解くだけではなく、1単元に最低2～3回は「どうしてそういう答えになったのか」ということを考える時間を設け、それを友達に伝えたり疑問に思ったことを質問し合ったりする時間を確保する。 【1単位時間レベル】 ・板書計画をしっかりと行うとともに、掲示物を効果的に活用したり、ICT機器（プロジェクターやパソコン等）を積極的に用いたりすることで視覚化を図る。 【その他の日常的な取組み】 ・朝学習の時間や家庭学習において、計算ドリルに取り組ませる。算数的なパズルのプリントなどにも適宜取り組ませ、数感覚を養う。		
	音楽	【学】歌唱・器楽など表現活動には関心・意欲をもって取り組めるが、楽曲分析や思いを表現に生かす深まり・高まりまでは見られない。	・歌唱では、歌詞の意味や曲想から、自分なりにもった思いを表現につなげていくことや、友達との交流により、表現を深めることが難しい。 ・器楽では、志向だけでなく、音色の特徴や曲想に適した楽器の表現を探求していくことが課題。	・歌詞の読み取りを丁寧に行う。また、階名唱によるメロディラインの認知や、掲示している既習の速度や強弱に関する記号を頼りにした曲想の理解を得る活動を多く設定する。 ・二人組の確かめ合いや、グループ活動による意見交換や作曲りの協働の場を、学期に1単元は設定できるよう計画する等友達との交流・協働の場を設定する。		
	図工	【学】おおむね皆意欲高く工夫も楽しんで取り組んでいる。めあてを具体的にし、学び合いを取り入れてきた成果が出ている。しかし、その中でも丁寧に仕上げたり、さらに手を加えたりしてより良くしていこうという意識が低い層がいるのが課題である。	・単元の初めは意欲をもって取り組んでいても、作品の制作過程で、仕上がりが自分の想定したとおりにならないと、制作への意欲を維持し続けるのが難しい。	・1段階仕上がりが良くなるような作業の指示を出し、できたら褒める。 ・より良い状態を見て学べるようにする。鑑賞の時に良いところを具体的に紹介する。 ・進んで楽しめるような題材設定の工夫をする。		
	特支	【学】自己肯定感が低い児童が多い。 人とコミュニケーションを取ることが苦手な児童が多い。	・自己肯定感の低さが、学習への意欲や興味の低さにつながっている。一定時間集中して課題に取り組むことが難しい。 ・相手の気持ちを想像したり、自分の思いを適切に表現したりことを苦手とする。	・「頑張りカード」を活用し、スモールステップで褒め、本人に自信や達成感をもたせる。 ・児童一人一人の実態や特性に応じた課題を提示し、意欲的に課題に取り組めるようにする。 ・人との関わりを意図的に設定し、相談したり、人と協力したりして活動させる。		

【調】…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

【学】…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。